

一 ねらい

生命のかけがえのなさを知り、自他の生命を尊重しようとする態度を養う。

3 | (1)

二 資料について

(一) 出典 「広川町誌」

(二) 対象学年 第三学年または第四学年

三 展開の主要例

- いなむらの火をつけていたときの儀兵衛の気持ち。
- 高台に登ってくる村人の人数を数えていたときの儀兵衛の気持ち。
- 「助かったんだ。」という村人の声を聞いたときの儀兵衛の気持ち。
- 堤防をつくった儀兵衛の気持ち。

四 その他

・参考資料：「私たちの広川町」（広川町小学校社会科副読本）、「浜口梧陵伝」

※いなむら（稲叢）：刈り取った稲を乾かすために、稲を円すい形に積み上げたもの。「すすき」ともよばれる。